

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム 杉 宮
日付	平成18年12月26日
評価機関	特定非営利活動法人 ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験15年
評価調査員	ケアセンター介護支援専門員 経験5年
自主評価結果を見る	(まだリンク先はありません)
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

外部評価の結果

講評	<p>全体を通して(特に良いと思われる点など)</p> <p>今年の2月に設立、まだ9ヶ月というのに、2ユニット満室である。管理者を始め約半数の職員が系列の特養ホームで経験してきた。「毎月無我夢中で、利用者さんの健康に気をつけて頑張っています」と管理者も職員も異口同音に言う。グループホームの認知症ケアの重要性を認識しながらも、特養ホームとの違いを日々の体験から実感し、利用者一人ひとりの幸せな生活を実現する為に努力している。</p> <p>2ユニットの名称が「しゃぼん玉」「紙ふうせん」で、童話の挿絵に出てきそうなロマンティックなイメージを感じる。職員の公募から決定したそうだが、2つのユニットをみると、利用者や職員の雰囲気から「しゃぼん玉」と「紙ふうせん」の違いが感じられる。静かにそっと眺めておかねばならないユニットとパンパンと飛ばし交うユニットを見た。</p> <p>一方は物静かに過ごす男性が多いユニットと片や賑やかな女性がテキパキと行動するユニットであるが、どちらも「してあげる」「してもらう」という職員と利用者の隔たりは全く感じられない。利用者は「ここがいい。ここなら何があっても安心だ」と言って家に帰ろうともしない人もいるようだ。「心温まる良いサービスをしよう」という目標が実現しつつある。</p> <p>入所してきた時は、殆んど下を向いていた人が、だんだん正面を見るようになってきて、会話の出来る日も近いようだ。それぞれに元気だった頃の自慢話のネタは持っているので、皆でコミュニケーションができる「きっかけ」を投げかける事が重要である。ボランティアで話し相手ができる人が協力してくれると活気が出て、しゃぼん玉や紙ふうせんどころでない強力なキャッチボールのできるグループホームになるだろうと思う。</p>
	<p>特に改善の余地があると思われる点</p> <p>次のような提案をした</p> <p>グループホームの運営やケアの質の向上のための改善計画を細かく立案し、短期、中期、長期の計画に分散して、総花的でなく一つずつ着実に実行して欲しい。</p> <p>まだ軽度の利用者も多いので、何かペットを飼って、広い空間の中に新しい存在感と癒しの風を吹き込んでみたらどうかと思う。</p> <p>畑の農作業は職員だけでなく、ボランティアの力を借りてみたらどうかと思う。</p>

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>グループホームの運営の為に、理念を掲げ、それを理解し、それを実現する為に短期、中期、長期の計画が必要である。そして日頃のマネージメントの中で、その精神がどのように生かされて、利用者や家族にサービス提供しているかが、そのグループホームの価値となる。</p> <p>今年は、「健康管理を重要課題とし、食事を自分で食べられるように、排泄を自分の力でできるように」という2つの大切な事が実現しつつある。誰にでも適応できるようケアを積み重ねていって欲しい。</p> <p>これらの積み重ねが理念の一つずつの実現となるであろう。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>「この食事は美味しいよ」「味付けもいい具合にして下さる」「いつも、こんなにたくさんですか?」「そうよ、美味しいでしょう!」と利用者と問答しながら、一緒に昼食をリビングルームで戴いた。食事の時間が近づくと待ちきれず、そわそわと落ち着かない利用者もいる。食事は利用者一番の楽しみである。</p> <p>この食事の光景を、2つのユニットの間にある広いウッドデッキで再現したことを想像している。白いアウトドア用のテーブルセットが6つ並び、そこに両ユニットの利用者と職員20数人が食卓を囲み、賑やかに食事をしている様子をここで実現できませんか? 傍らのプランターに咲く花があれば雰囲気は倍増してくれるだろう。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</p> <p>このグループホームでは、現在「集団生活と個人生活のリズムをどのようにすれば良いか」について考えている。当たり前のようで大変重要で難しい課題である。そこで目に付いたのは、食事は皆で一緒にテーブルに着いて同じ物を食べる。皆で食べるから美味しくたくさん食べれる。その中で、「今まで自分で食べられなかった人がスプーンで食べられるようになった」「スプーンで食べていた人が箸で食べられるようになった」ことが現実になって成し遂げられた。職員のケアもさることながら、箸で食べたり、自分で食べている人を見た影響もあるかも知れない。この事から「集団生活のリズムから、個人生活のリズムが飛躍できた」と考えられないだろうか。私は、個人と集団の生活は別の事ではなく、共存した中で、その人の能力が発揮出来るものが、個人生活のリズムを作り出せるものではないかと考えている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。</p> <p>病院が母体で、医療と介護が両立して初めて高齢者の生活が守れると、故院長が福祉施設の充実に力を注ぎ、その意志を継いで法人が生まれ、その中の最も新しいグループホームである。そしてこの地域に住み慣れた管理者や職員と利用者が多い。お互いに昔の事も良く知っている。ある利用者を見て、「私が子供の頃は無口だけど、とても思いやりのあるおじさんでした」と語るうちに涙ぐむ管理者。残念ながら認知症になってしまった方が多くの地元の方に見守られながら、幸せに人生を送っていただけるのがグループホームでなければならない。このグループホームには、地域の人や家族、ボランティアの人等、地元ならではの温かさや優しさを受けて、地域密着型のサービス提供事業者として、近い将来は認知症ケアと理解の発信地となるよう期待している。</p>		